

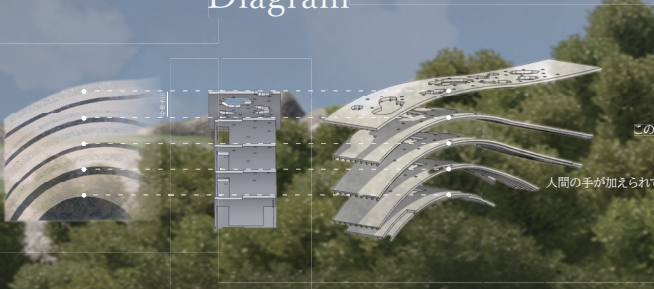
# 研ぐ時空

~GL が僕らにくれたもの~

## GL の解釈

GL と聞いて皆は、今見えている地盤を GL ととらえるだろう。だが、今見えてる GL は、途方もない時間をかけて作られたものだ。上から見れば二次元的にしか見えない GL も、時間という次元を取り込むことで三次元的に解釈できる。つまり、それは「地層」である。僕らは、GL から「地層」を考えた。

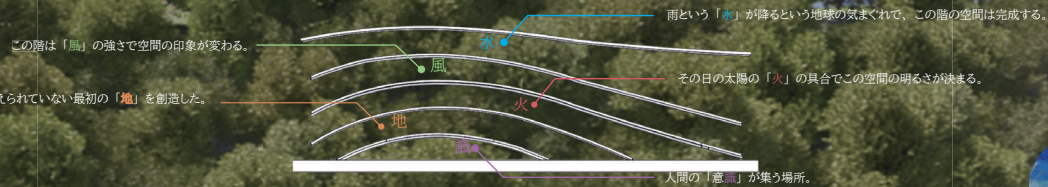
## Diagram



1. 地層の形が天井と床を決める

## Concept

人間は適応する生き物である。が、忙しい現代社会とその社会に適応する中で「大切な感覚」を置き忘れ「感情の劣化」が引き起こされている。例えば、電車の中で誰も外の景色を見ない。見るのはスマートフォン。電車の車窓から入ってくる、暖かい日差しや移り行く景色を楽しんでいる人はどれだけいるだろうか。こういった、日常に転がっている自然との関わりあいから出てくる感情を言葉にする機会が失われ、言語化できない未解決の問題として集積し「感情の劣化」が引き起こされているように思う。僕らは、自然に建築をゆだねまた自然を建築で切り取り、そこに来た人が五感で意識し自然を感じる。その研ぎ澄まされ、洗練した時空間のなかで五感を研ぎみずみずしい感情を取り戻す建築をこれからの建築と考えた。

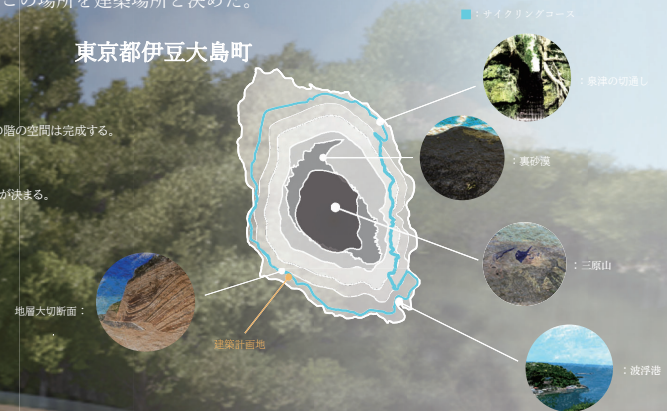


2. この地球を創っている要素に分解して各階をその要素に当てはめ用途を決める。

## Context

建築場所は、東京都伊豆大島町。黒潮の影響により、気温の日格差と年較差が小さい温暖多湿な気候である。年間降水量は約 2,800mm と多雨である。そして、日最大風速約 10m/s 以上の強風日数は、年間の 1/3 に達する。また、伊豆大島町には多くの名所がありそのうちの一つに地層大切断面がある。そこは、地層を眺める施設はなく車の車窓から前から後ろへと流れる地層を眺めるだけになっている。僕たちは、このような自然の荒々しさとじっくり地層を眺める場所のないこの場所を建築場所と決めた。

## 東京都伊豆大島町

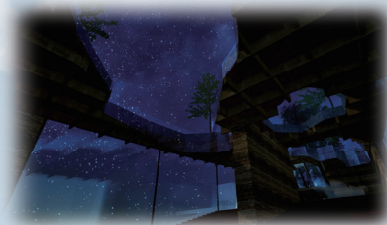






### 水エリア **視 触 嗅 聴**

「雨が降る」という自然の気まぐれによって完成する空間。雨が降っている間は、「海」、「空」、「水盤」の作り出す淡い青色の連続が空間に奥行きをもたらせる。また晴れた次の日は雨によってもたらされた天からの恵みが水盤に溜り、太陽の日差しがその水盤を通して幻想的な光を空間に注ぐ。



### 切り取られた宇宙空間

星空で有名なここ伊豆大島町。この水エリアの夜は満点の星空を切り取り美しい天井が完成する。日中が作り出す空間とはまた違った空間を作り出す。



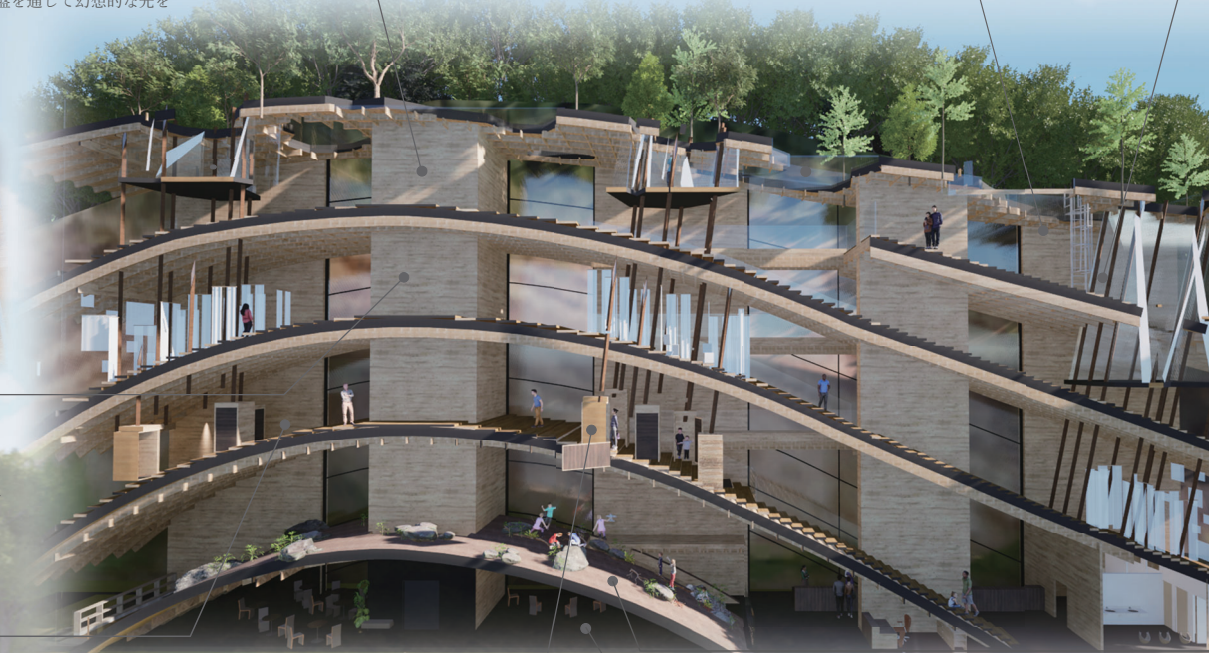
### 雨ニモマケズ

普段僕らは雨に濡れるのを拒む。濡れれば風邪を引くかもしれないから傘をさす。だが傘をさした瞬間、同時に雨に打たれることでしか知りえない事を失う。一粒の雨が体に落下する心地よい衝撃、匂い、そして、普段は傘が隠している見上げた時の雨の落下の迫力。それらを再確認できる場所。



### 風エリア **視 触 聴**

風の具現化を試みた。吹く風の強さに応じてカーテンの揺れる大きさが変わり魅せる空間の表情が変わる。その日によって受ける印象は天候にゆだねられた空間。



### 風エリアの開口部

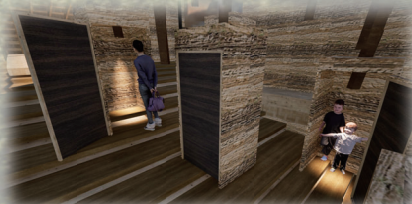
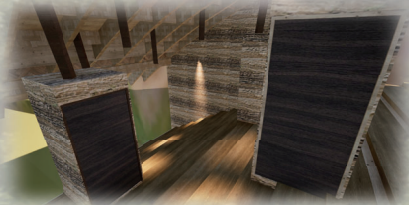
風エリアには両側に開口部が設けられている。この開口部が風の流れを作り、よどみなく風が通り抜ける。

### 火エリア **視 触**

太陽の自然光が降り注ぐ空間。天候によって最上階から三階に降り注ぐ自然光の質が変わり空間を優しく照らす。

### 日射ボックス

鏡の筒がボックスに刺さっており、太陽の自然光が筒の中で反射を繰り返しながら日射ボックスの中に降り注ぐ。外から日射ボックスの中に入る時の自然光の感じ方と、日射ボックスの中から外に出るときの自然光の感じ方の違いから火を感じる。



### 識エリア **嗅 味**

地層を見ながら、人と人が意識して会話する場所。自然に囲まれた落ち着いた空間は、騒がしい日常のあふれる普段のカフェではできないような、相手の目を見て会話に集中できる空間が広がる。

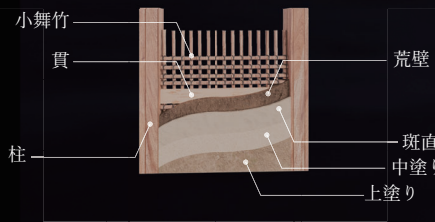
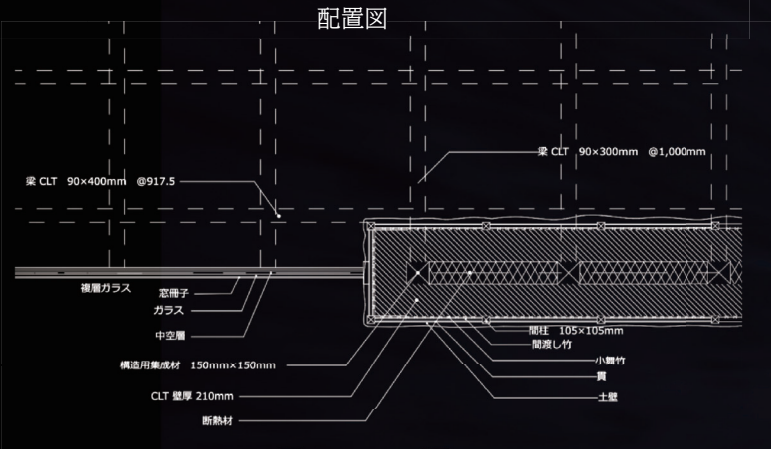
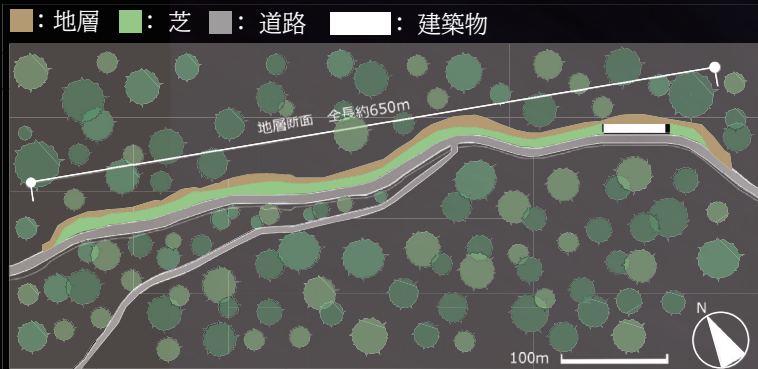


### 土エリア **視 触 嗅**

原始の自然をイメージして創り出した。せわしなくすぎる日常の中で、僕らは土と戯れることを忘れてしまった。素足で土を踏みしめ感触を確かめたり匂いを嗅いで、日常では感じづらい自然を建築物によって切り取り集中する。



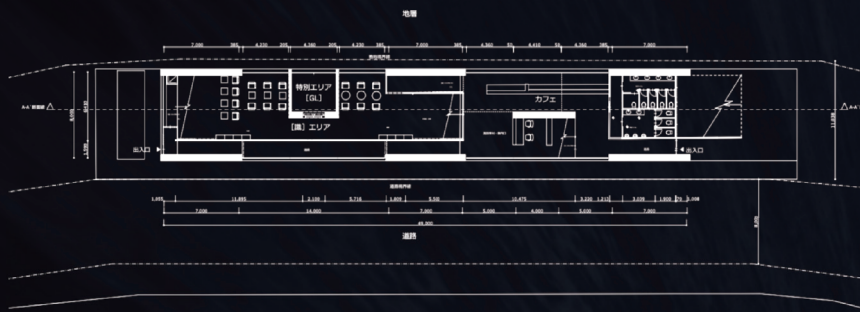




柱と柱の間に小舞竹、貫で骨組みを作成。土、石灰、セメントを押し固める版築工法で地層の色合いに合わせて土壁を作成。版築工法で作成することで地層の重なり具合を表現できる。地層で取れる腐食土、を土としてまた伊豆大島町で取れるスコリアを骨材として利用する。



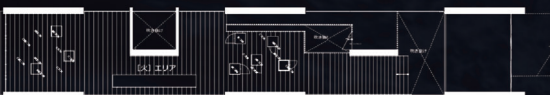
夜は建物の照明に照らされて建物の後ろの地層が浮かび上がって見える。



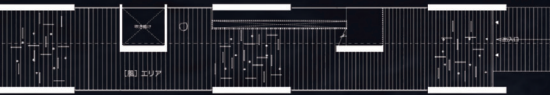
配置図兼一階平面図



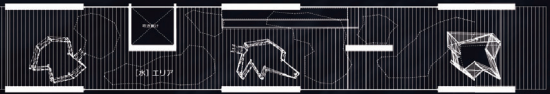
二階平面図



三階平面図



四階平面図



五階平面図



屋上平面図

